

ぼくたちがここに
いる
本当の理由

DIRECTED BY KAORI SAKAGAMI

PRISON プリズン・サークル CIRCLE

www.prison-circle.com

取材許可まで6年、撮影2年――
初めて日本の刑務所にカメラを入れた
圧巻のドキュメンタリー

「島根あさひ社会復帰促進センター」は、官民協働の新しい刑務所。警備や職業訓練などを民間が担い、ドアの施錠や食事の搬送は自動化され、ICタグとCCTVカメラが受刑者を監視する。しかし、その真の新しさは、受刑者同士の対話をベースに犯罪の原因を探り、更生を促す「TC(Therapeutic Community「回復共同体」というプログラムを日本で唯一導入している点にある。なぜ自分はここにいるのか、いかにして償うのか？彼らが向き合うのは、犯した罪だけではない。幼い頃に経験した貧困、いじめ、虐待、差別などの記憶。痛み、悲しみ、恥辱や怒りといった感情。そして、それらを表現する言葉を獲得していく…。

2025年11月8日(土)

宮崎県初上映!

12:00~14:30 上映会(開場11:30)

14:30~16:00 トークセッション

16:15~17:45 ミュージックライブ

会場:宮崎国際大学 国際交流センター(学食)・2-307

参加費:無料

定員:100名

予約優先 QRコード、またはURLより、
Googleフォームにてお申し込みください。
<https://forms.gle/5Jc49kdJSBQxqMco9>



宮崎国際大学 889-1605 宮崎県宮崎市清武町加納丙1405 <https://www.miu.ac.jp>

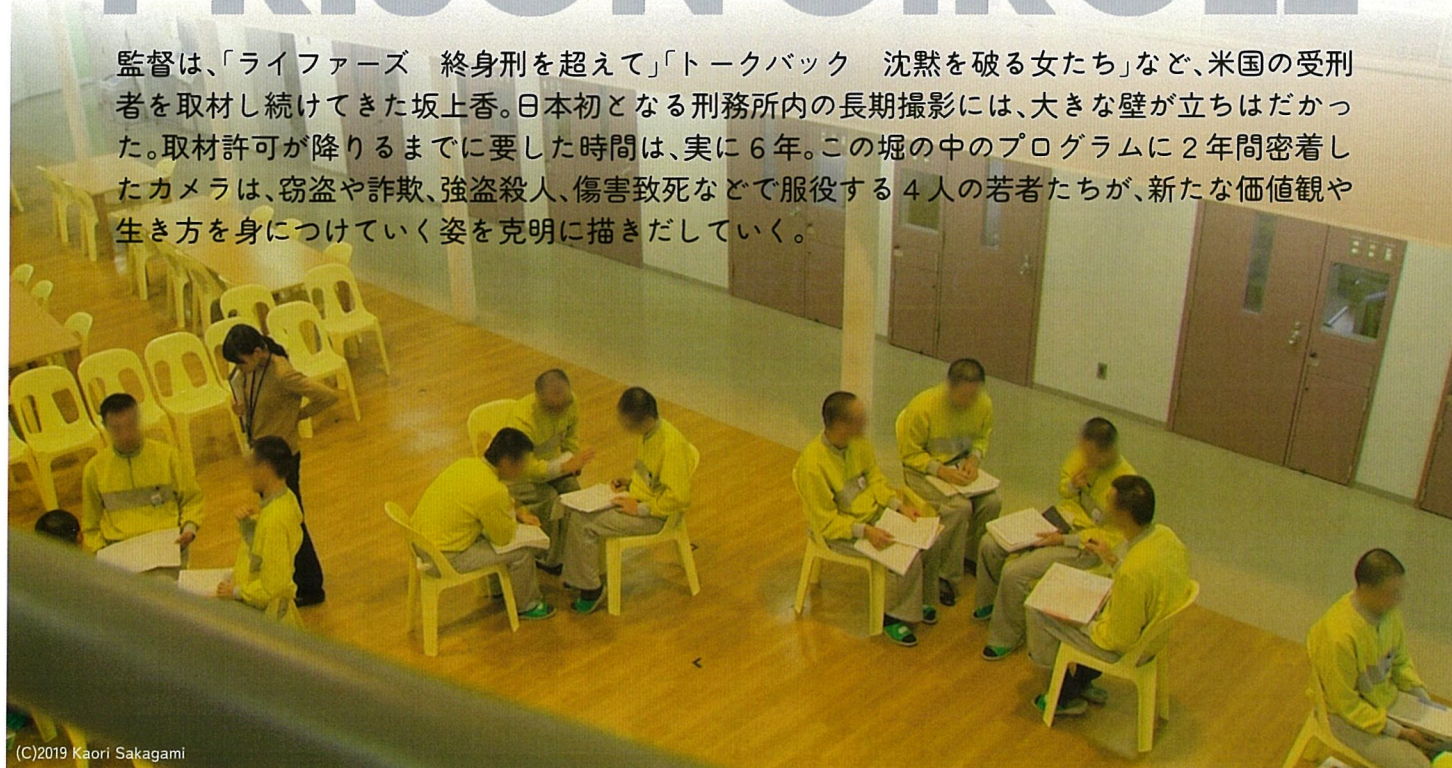
処罰から回復へ。今、日本の刑務所が変わろうとしている。

主催:宮崎国際大学 地域連携センター



プリズン・サークル PRISON CIRCLE

監督は、「ライファーズ 終身刑を超えて」「トークバック 沈黙を破る女たち」など、米国の受刑者を取材し続けてきた坂上香。日本初となる刑務所内の長期撮影には、大きな壁が立ちはだかった。取材許可が降りるまでに要した時間は、実に6年。この堀の中のプログラムに2年間密着したカメラは、窃盗や詐欺、強盗殺人、傷害致死などで服役する4人の若者たちが、新たな価値観や生き方を身につけていく姿を克明に描きだしていく。



(C)2019 Kaori Sakagami

日本語字幕付バリアフリーバージョン139分(会場:国際交流センター)と**英語字幕版**120分(会場:2-307)を同時上映します。それぞれの会場にお越しください。英語字幕版は劇場公開時の日本語版とは一部編集が異なります。

TALK SESSION

刑期を終えた方、依存症、困難を抱える方々が、必要な支援や学びにアクセスできる機会が宮崎でも限られている現状。この映画を通じて、「回復共同体」という新しい支援の形と理念を学んで、私たちの地域でも回復の機会を広げていきましょう!



ワタナベ ショキ
孤独問題研究所主宰
スワラジ代表

大学卒業後、ソーシャルベンチャーやNPO法人等に勤務するも、過重な働き方が原因で体調を崩す。療養のため宮崎に帰郷し、父の介護や自らの病の経験を通じてソーシャルワーカーを志す。リハビリ期間と百姓生活を経て、生活困窮者の支援事業に携わる。食が健康に寄与し、統合的なリカバリー支援に不可欠であることに気づく。現在は、食を通したエンパワメントや「コミュニティ・アズ・セラピー」を実践するNY州のファウンテンハウスをモデルに、当事者主体のリカバリーセンターの設立に向け活動中。また、研究者、支援者、当事者を繋ぎながら、イノベティブなソーシャルワークの手法を学ぶ勉強会を開催。さらに、孤独や孤立をテーマとした対話の場「孤独・孤立の対話のひろば」をオンラインで企画・運営している。精神保健福祉士。



引土 絵未
(ひきつち えみ)
日本女子大学
准教授

19歳の時にアルコール依存症の父を自死で亡くしたことをきっかけに、精神科ソーシャルワーカーになり、主にアディクションからの回復支援に携わる。在職中にアメリカの治療共同体に感銘を受け、大学院で治療共同体について学ぶことを決意し、5年半勤務した精神科病院を退職。治療共同体Amityでのフィールドワークで生き直しの機会を得た経験から、日本での治療共同体実践による安全な対話の場の実現に向け、実践と研究に取り組んでいる。当事者・家族・治療共同体に関心のある人など様々なバックグラウンドの人たちが、安全な対話を通してさまざまなとらわれから解放されていくことを目指す「治療共同体ネットワーク」を主催。国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所薬物依存研究部外来研究員、日本学術振興会特別研究員RDPなどを経て現職。



平沼 哲
(ひらぬま さとし)
グレイス・ロード東京センター長
生活支援員
ピアカウンセラー

室蘭工業大学卒業、元花火師。国立病院機構久米浜医療センター「ギャンブル等依存症回復施設職員研修プログラム」修了。グレイス・ロードとは、12ステッププログラムやエンパワメントグループ等の回復プログラムを提供するギャンブル依存症に特化した回復施設。回復プログラムでは、自助グループに準じた「言いつばなし、聞きつばなし」のミーティングや、内面まで掘り下げた仲間との対話を通して感情を引き出すことを目的とするエンパワメントグループを毎日実施。これにより、依存症に対する無力を認め、新しい生き方を獲得するとともに、互いに認め合い、自分や他者への気づきを深め、自己理解・他者理解・自己受容・感受性を促進して信頼関係を築くことを目的とする。

お問い合わせ・メールでのお申し込み akasai@miu.ac.jp